

2023 年度卒業生調査報告（抜粋）

1. 要旨

本報告では、2019 年度に本学を卒業した卒業生を対象に行った「2022 年度 清泉女子大学「大学での学びと仕事」についての調査」（以下、卒後 3 年アンケート）をもとに、卒業時点における「学びの達成度」や本学での学びの有用度などをまとめたものの抜粋である。

卒後 3 年アンケートは 2023 年 8 月 4 日～8 月 23 日まで Google Form を用いて実施し、対象者（就職課に連絡先の届け出があった者）249 人中 73 人から回答を得た。回答者の内訳は日本語日本文学科(日文)13 人・英語英文学科(英文)23 人・スペイン語スペイン文学科(西文)6 人・文化史学科(文化史)23 人・地球市民学科(地民)8 人であり、回答者の 84%（61 名）が正社員として就労していた。また、正社員として就労している卒業生のうち、82%（50 名）は転職の経験がなく、新卒で就職した会社に今でも勤務していた。

2. 結果の概要

2.1. 卒業後 3 年経過時点で大学生活を振り返ったときの文学部 DP 達成度

表 1：清泉女子大学 文学部 DP（2021 年度以前）

清泉女子大学文学部は、本学に所定の年限在籍し所定の単位を修得し、次のような知識、技能、態度、資質を備えた学生に対して卒業を認め、学士の学位を授与する。 (DP1) 豊かな教養と専門領域の学芸を修得している。 (DP2) 建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムを理解し、他者を思いやる人間性を持ち、奉仕的精神を持って行動できる。 (DP3) 複雑な事象を前にしても、問題の根源にさかのぼって論理的に思考を重ね、解決を目指すことができる。 (DP4) 言語等によるコミュニケーションの能力を備え、多様な立場や考え方が交錯する中でも対話を続ける姿勢を保つことができる。 (DP5) 文化の多様性を理解し、個々の文化の個性を尊重し、国際社会の中で活躍するための基本的な資質を備えている。 (DP6) 常に学ぶ態度を忘れず、知識を広め教養を深めて、自分を豊かにしていくことができる。

本学の DP は文学部 DP と学科 DP の 2 つが定められており、文学部 DP についてはすべての卒業生が満たすべきものとして設けられている（表 1）。

文学部 DP について、卒業後に振り返ってみたときの卒業時における達成度（身に付いた・できるようになった）の自己評価を（達成できなかった:1）から（達成できた:5）までの 5 段階で尋ね、その平均値で達成を評価した。図 1 は文学部 DP の各項目(下位項目に分割したものを含む)に対する平均スコアを示したものである。

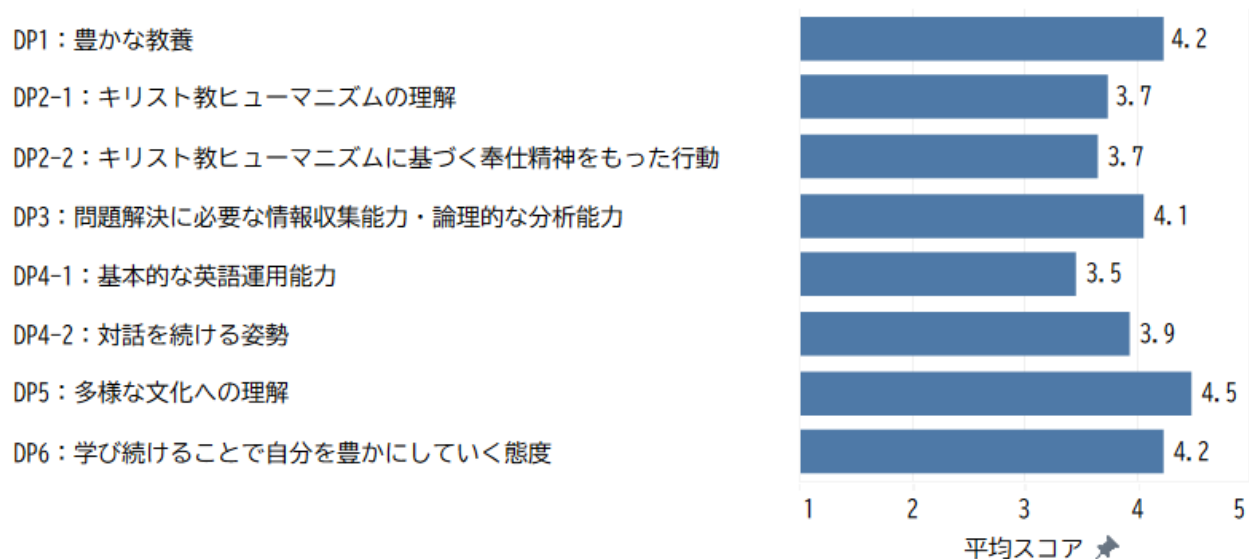


図 1：卒業後 3 年時点での「卒業における文学部 DP 達成度」（自己評価）

各項目の平均スコアが 3 をこえていることから、卒業生は社会に出て経験を積んだ時点で振り返っても、大学の学びは卒業時点で十分に達成したと評価しているといえる。ただし建学の精神であるキリスト教ヒューマンイズムの理解、理解に基づく奉仕精神をもった行動、基本的な英語運用能力については他の項目に比べて評価が低めであったため、今後のカリキュラムにおける改善を検討する必要がある。

2.2. 文学部 DP6 に対応する学習行動の確認

文学部 DP6「常に学ぶ態度を忘れず、知識を広め教養を深めて、自分を豊かにしていくことができる」に対応する学習行動として、卒業後の学習活動について尋ねた結果が表 2 である。回答者の半数近くがなんらかの学習活動を行っていることから、本学の卒業生はおおむね「常に学ぶ態度を忘れず、知識を広め教養を深めて、自分を豊かにしていくことができる」と考えられる。

表 2：卒業後の学習状況

1. 大学・大学院などの教育機関が提供する対面教育（単発・短期の集中講座を含む）を利用して学んでいる・学んだことがある	6% 4人
2. 大学・大学院などの教育機関が提供するオンライン講義・教材（edXやJMoc、放送大学などを含む）を利用して学んでいる・学んだことがある	8% 6人
3. 企業が提供する対面教育（英会話学校やカルチャースクール）を利用して学んでいる・学んだことがある	13% 9人
4. 企業が提供するオンライン講義・教材（アプリやオンライン英会話、通信教育、Udemyなどを含む）を利用して学んでいる・学んだことがある	41% 29人
5. あてはまるものはない	51% 36人

2.3. 学科 DP 達成度

学科 DP は表 3 のとおりである。

表 3：学科 DP（2021 年度以前）

●日本語日本文学科ディプロマ・ポリシー (1) 日本語学・日本古典文学・日本近代文学の三分野において豊かな教養と深い専門的知識を修得している。 (2) 日本語及び日本文学の知見に立って、論理的な思考力と優れた表現力を備えている。 (3) 国際貢献の土台となる、自国の文化への深い理解を持っている。 ●英語英文学科ディプロマ・ポリシー (1) 英語運用技能（読む、書く、話す、聴く）を修得している。 (2) 英語学と英米文学を中心とした英語で書かれた文学における専門的知識を持っている。 (3) 広い視野と深い教養を持っている。 (4) 多様な文化への理解がある。 (5) 国際社会に貢献できる。 ●スペイン語スペイン文学科ディプロマ・ポリシー (1) スペイン語の基本技能（読む、書く、話す、聴く）を修得している。 (2) スペイン語で書かれた文学を学修している。 (3) 広い視野と深い教養を持っている。 (4) 多様な文化への理解がある。 (5) 国際社会に貢献できる。 ●文化史学科ディプロマ・ポリシー (1) 歴史・美術史・思想史・宗教史の四つの専門分野ならびに関連分野を学修し、いずれかの分野の専門的能力を備えている。 (2) 先入観や偏見にとらわれることなく、広い視野から専門分野にかかわる諸問題に取り組み、批判的・自律的に考えることができる。 (3) 異文化や他者を理解し、よりよい世界の構築に寄与しようという意識をもって思索を重ねることができる。 ●地球市民学科ディプロマ・ポリシー (1) 主体性・責任感・協調性を修得している。 (2) 判断・批判・対話・創造・実践の各能力を修得している。 (3) 地球社会の諸問題を国家や民族の枠組みを超えて、人類の共生という視点を理解し、解決していくことができる。 (4) 英語等外国語運用能力を修得している。
--

卒後 3 年アンケートでは、学科の各 DP に対して達成度（身に付いた・できるようになった）の自己評価を行った。達成度の自己評価は（達成できなかった:1）から（達成できた:5）までの 5 段階とし、平均スコアで達成を評価した。図 2 は学科 DP の各項目に対する平均スコアを示したものである。

各項目の平均スコアが 3 をこえていることから、文学部での学びと同じく、学科の学びについても、卒業時点で十分に達成したと評価しているといえる。評価のやや低い項目については、今後のカリキュラムにおいて改善を検討する必要がある。

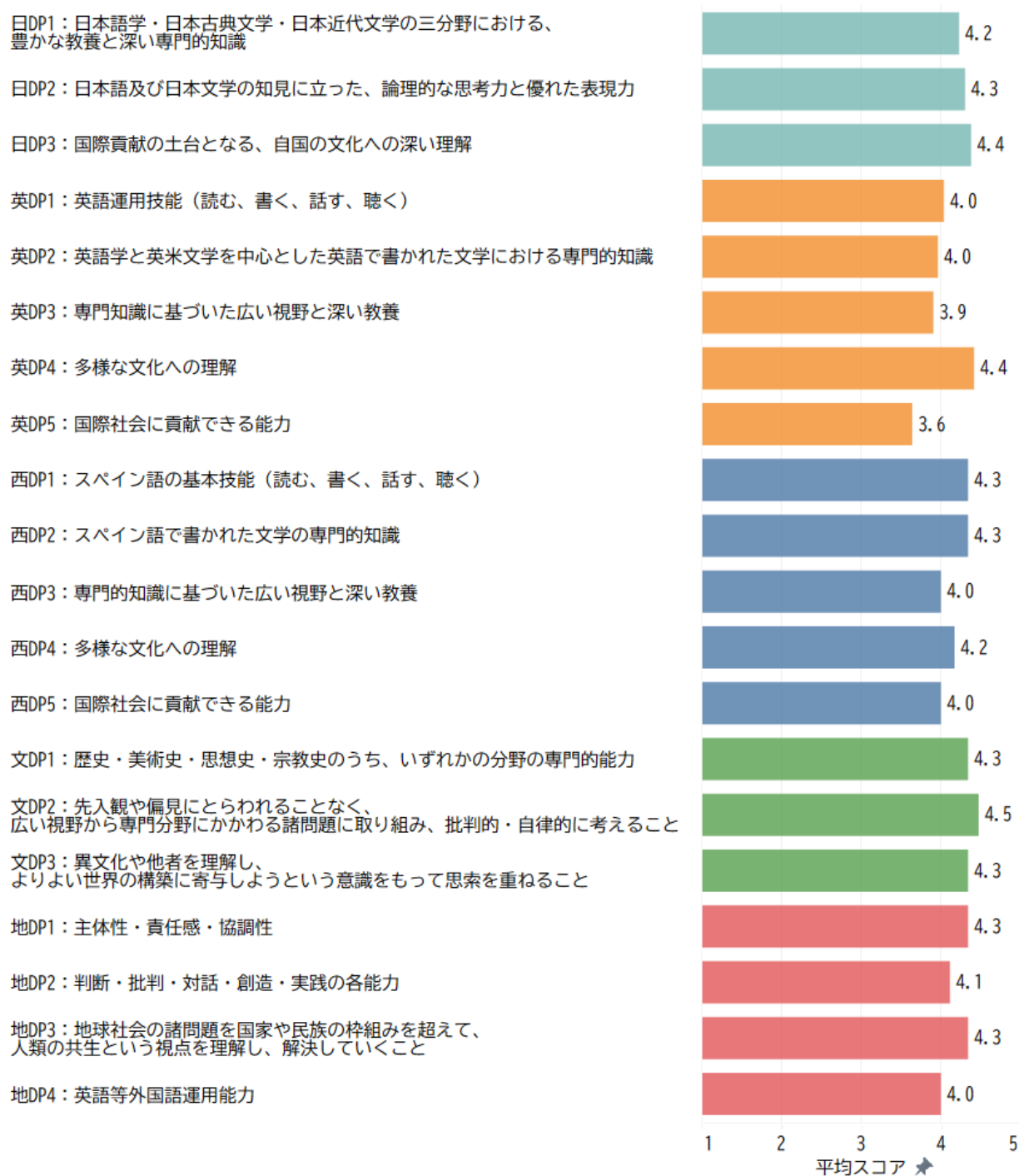


図 2：卒業後 3 年時点での「卒業時における学科 DP 達成度」（自己評価）

2.4. 学科の学びと社会

図3は、学科で学び身につけたことが仕事の役に立ったかを尋ねたものである。「役立ったと思う」「やや役立ったと思う」を合わせた回答の割合は地民がもっとも高く（100%）、日文（84%）、英文（73%）、文化史（65%）、西文（50%）の順であった。西文は学科の特性上、就職先によっては、専門の学びが直接「役に立った」と感じづらい可能性がある。

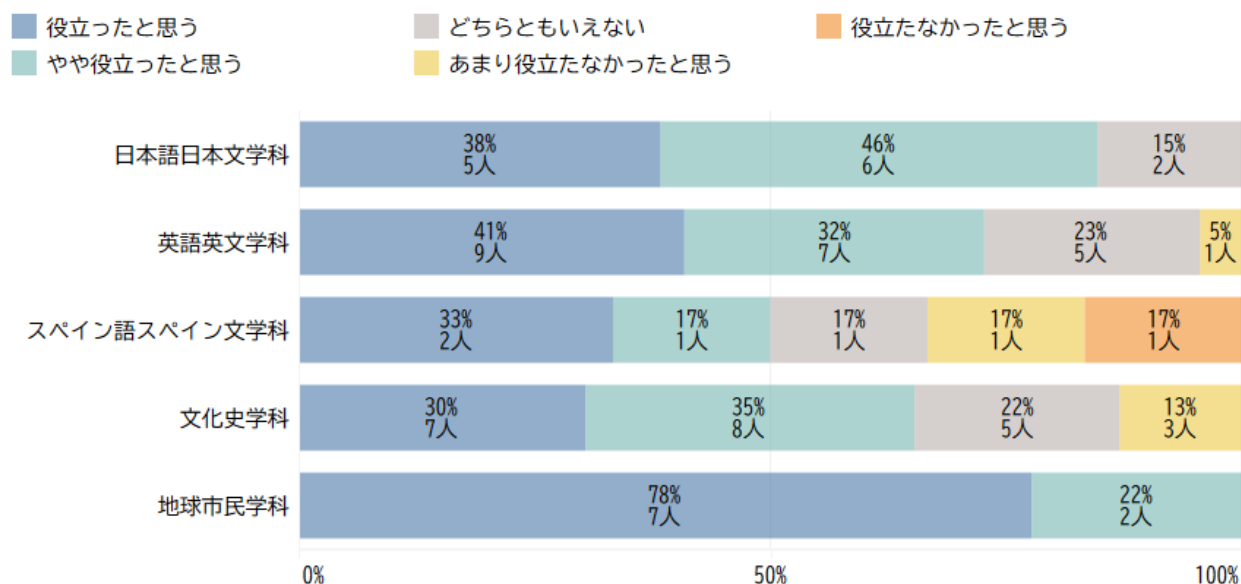


図3：学科で学び身につけたことが仕事の役に立ったか

以上